

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570101693
法人名	財団法人 弘潤会
事業所名	グループホームほのぼの
所在地	宮崎市大字小松1173-5 (電話) 0985-47-6555

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和地川1丁目101
訪問調査日	平成19年6月25日

## 【情報提供票より】(19年6月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.3 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有( 円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1200 円			

## (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		2名	要介護2		3名	
要介護3		3名	要介護4		1名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	86.7歳	最低	77歳	最高	95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野崎病院	野崎東病院
---------	------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは同敷地内に同法人の小規模多機能ホームとともに住宅地の一角にある。居間はテラスを利用してあり明るく、のんびりとその人らしく気ままに過ごせるような空間がある。また、テラスから公道を眺める事ができ、バスや車、人の往来もあり社会生活との接点もあわせもっている。利用者はさっぱりとした清潔感のある装いで過ごして居られ職員のさりげない支援がなされている。近隣にはコンビニや食堂があり職員と利用者が買い物に出かけたり地域の中で暮らせる施設である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員の意見を聞いて作成されている。職員は評価の意義を理解しケアのあり方や自分を評価し利用者へ対するサービスの向上に向けた取り組みがなされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進委員会は2か月に1回行なわれており、事業報告についての評価や助言を生かしたサービスの向上がはかられている。構成員の選出にも地域包括支援センター職員、自治会、民生委員、医師、介護相談員、家族等多様なメンバーで構成しており、地域の警察派出所などへも協力を依頼し地域に根ざした取り組みを行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月家族便りが配布され、支払いの時には、日常の様子が報告されている。年間計画の中で必ず1度は運営推進委員会に参加していただくしくみがある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 市町村を中心として、地域の自治会との話し合いや、保育園との交流がなされており、地域と密着した連携を図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に慣れ親しんだ地域で、利用者の方が出来るだけ自分らしい生活スタイルを維持しながら生活出来るよう利用者の気持ちになって職員全体で考えられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念がなげない形で目の付く所に提示されており、日常のなかで、理念についての話合いがもたれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会への働きかけや保育所との交流会がなされている。小学生の「おたすけハウス」や中学生の職場体験学習の場の提供を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で評価に取り組み、ケアのあり方や自分の評価を振り返り前向きに改善できるようにされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行なわれており、利用者の家族全員が出るしくみになっている。又会議の内容については職員全員に報告されサービスの質の向上に取組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の実施する研修会等にすすんで参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定例の家族会の行事が年に1回行なわれている。又「ほのぼのたより」の機関紙が毎月おくられている。支払いは振込みでなく毎月1回は顔を出していただき利用者の様子を報告するしくみになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年間の運営推進会議の予定の中にすべての家族がどこかで参加できるようなしくみがある。又「ほのぼの便り」と一緒に運営推進会議の内容が報告されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は原則的に行なわれていない。退職の希望がある場合は出来るだけやめない方向で、話し合いがもたれている。新しい職員は利用者と同様顔なじみになってから夜勤に組み入れられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の社会福祉協議会主催の研修にあわせて年間計画をたてて全職員が平等に受けられるよう、出張の形で参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会員として勉強会や他の事業所の見学をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面談記録もあり、申し込みされた方は2～3回訪問しなじみの関係になって入居していただく事になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のそれぞれの力を引き出せるようにかかわっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人1人の一日の過ごし方が表示されておりそれぞれの希望に応じた支援がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者1人1人に担当者が決めてあり家族や必要な関係者と相談しながら介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画について毎月、モニタリング、話し合いをしている。また日々の申し送りの中で問題が発性したら話し合いがなされ介護計画の見直しがなされる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自由な面会時間や外出外泊や訪問歯科等を受け入れてその時々々の要望に応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に、相談したり連絡を取りあい、指示をもらったり、状態について報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所の時点で家族との話し合いが持たれており動けなくなった時は関連施設との連携が保たれている。	○	これからのテーマとしては、なじみの所でのみとりのありかたについても考えてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応のしたかが丁寧で、記録等の個人情報の取り扱いを厳守する体制がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式を取り入れ、利用者一人一人のシートに「私は1日このように過ごします。私にあわせて支援してください」と書かれてあり、それぞれのペースにあった支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物を利用者と共に行ったり、一緒に調理、配膳や下膳、食事をして食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は本人の希望や体調に添えるように毎日準備されている。又温泉を楽しむ行事も行なわれている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の力量に合わせて洗濯物を干したり取り込んだり、たたんだり等の日課があり、ドライブ遠足等の楽しみごとの年間計画が立てられ支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	いつも出たい人は散歩や買い物が日課になっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵はかかっておらず利用者は自由に庭に出れるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練がなされており、毎月防災設備会社の点検がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の職員がおり、栄養バランスの取り方の勉強会が行われており、摂取量のチェックが行われている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が植えられ、テラス風の居間は明るく居心地の良い空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室にはなじみのものが持ってきてあり、居心地よく過ごせるようになっている。		